

心をひとつに、明日を切り拓こう！

ひさみつ ひろのり
久光 博智

自動車総連・副事務局長

3月11日（金）午後2時46分ごろ、三陸沖を震源に国内観測史上最大のM.9.0地震が発生しました。これに伴う東北・関東地方の太平洋側に大津波が到達し、広範囲で未曾有の大災害をもたらしました。まずは、亡くなられた組合員さん、ご家族をはじめとして、人命を奪われた多くの犠牲者の皆様に衷心よりお悔やみ申し上げます。また、被災にみまわれ、不自由な避難生活を余儀なくされている多くの皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今回の甚大なる災害発生以降、政府・地方自治体など各関係機関による懸命なる人命救助や自らの生命に影響しかねない環境下にあっても国民の生命を守るために必死に取り組んでおられる関係各位の皆様には敬意を表したいと思えます。

この激甚災害に対して連合をはじめとして各産別で対策本部を立ち上げ対策を進められており、私たち自動車総連においても震災発生直後、甚大災害対応マニュアルに沿って「中央対策本部」を即座に立ち上げ、仲間の安否確認を最優先に被災状況の把握に全力を挙げるべく加盟組織との連携強化してまいりましたが、広範囲にわたる被災地との連絡はままならず、心配で不安な日々が刻々と過ぎ去っていきました。そうした中、徐々に安否が明らかになり、大切な生命を失われた仲間やご家族の情報も入り、深い悲しみが押しよせています。加えて、多くの家屋や住居、働く場所が失われ、ライフラインが途絶える中での避難生活に関する情報が集まる状況下、加盟組合の組合員さんからは、被災地の皆さんに対して「何とかしたい」、「何かできないのか」、組合員さんご本人とご家族のことはもとより、被災された皆様をみんなで支え、

助け合いたいとの心温まる相互扶助の声が数えきれないほど寄せられました。

こうした中、産別の中央対策本部としては「生命はもとより勤労者・生活者の雇用と生活を守る」との視点に立ち、「一人ひとりの力は小さいが結集すれば大きな力になる」、加盟組合との力を集結し、やれること・やるべきことを状況に応じて段階を踏んで着実に進めていくことが極めて重要と考えています。と同時に、国難ともいえる過去に経験のない未曾有の事態であるからこそ、労働組合として互助互恵の精神のもと、今後、始まる復旧・復興段階においても国民、地域、産業など、それぞれの目線での対応のベクトルを合わせるとともに、産別独自の取り組みはあるにせよナショナルセンターである連合台で一致結束し、全力を挙げて対処していかなければならないと考えています。

最後になりますが、まだまだ余震が続く状況下、また広範囲にわたる被災状況の全容を把握するまでには至っておらず、連絡もつかず、安否情報でさえ、今なおすべて確認できる状況にはない時点での投稿するのが本当にいいのか、未曾有の大災害への対応では様々な見方やご意見があるかとは思いますが、労働組合の立場であらゆる困難な状況にあっても果敢に立ち向かい、それぞれの持ち場・立場で最大限の力を発揮し、一步一步着実に地道な活動を積み重ね、国民目線でともに頑張りあいたいと強く思っています。

自分ひとりではない、みんなが支えてくれているからこそ、頑張ろうという気になると思えます。被災された皆様が明日への希望が持ち続けられるように願ってやみません。